

〈迷惑〉意識とケアの相克を超えて――

「迷惑をかけたたくない」

思いの歴史

本村昌文・加藤諭・山本大介 [編]

A5判／並製本／312頁
定価・本体3800円＋税
ISBN 978-4-8316-1734-9

現代日本における自律（自立）の強調と、それに伴うケアへの忌避感、歴史上いかに形成され、展開してきたのか――

「他者に迷惑をかけたくない」という意識の背景となる「迷惑」に関連する語句の用例と文脈を文学・思想・新聞等から歴史的に探索し、老い・看取り・死をめぐる〈迷惑〉意識の過去と現在を根源的に捉え直す。



目次

- 序章 「迷惑をかけたたくない」という思いの歴史的研究に向けて……本村昌文
- 第一章 古代往古伝類にみる死と〈迷惑〉意識……小泉礼子
- 第二章 「続拾山」の歌と棄老……山本大介
――平安・中世における「古今和歌集」古注新書の書影を中心に――
- 第三章 中世における〈迷惑〉意識をめぐる観念……和田有希子
- 第四章 「続養老律料」における「迷惑」／「迷惑をかけたたくない」という思い……本村昌文
- 第五章 明治期の病をめぐる物語と迷惑をかけたたくない思い……島田雄一郎
――「疾病」と「書簡」を中心に――
- 第六章 近現代新聞メディアにおける〈迷惑〉意識……加藤諭
――「せい」／「ジリ」記事統計の整理過程――
- 第七章 現代日本における「迷惑をかけたたくない」という思い……本村昌文
――「明日新聞」の読者投稿を手がかりに――
- 第八章 〈迷惑〉意識を日本人の贈与行為から考察する……鈴木亮三
――外国人による養老記録をもとにして――
- 第九章 ヒトの生存戦略とその変容……佐藤弘夫
――「困り」という視座から――
- 終章 〈迷惑〉意識の歴史的研究の成果と意義、今後の展望……加藤諭／山本大介

※ご注文は書店へお申し込みください。